

LGBTQに関するメディア報道

(気仙沼高校 2年4組21番 佐藤日和)



1. 目的・背景

(背景)
LGBTQの差別をなくす声が多いのにも関わらず無くなっていない
→考える場が少なく、知識不足

LGBTQの知識をメディアが伝える課題と方法を明らかにする

(自分の考え)
「差別をなくす」→「考える」

3. 考察・まとめ

【課題】

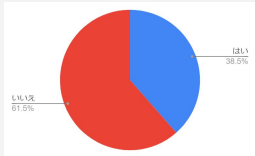
- メディアが多くの人の目に触れる
→流し見されやすい(調査結果①)
「特に興味がない人は...」(③)
- メディアがもっと印象に残る伝え方をしなければ(①)
- LGBTQ当事者の消費(②)
- LGBTQを扱うメディアの少なさ(②)

【方法】

- メディア関係者とLGBTQ当事者のワークショップ(③)
 - 何を伝えるべきかなど
メディアが知識を得る機会になる
 - 消費されるメディア→協同するメディア

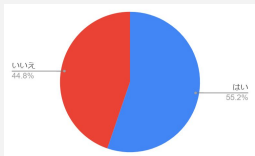
2. 調査結果

①気仙沼高校1～3学年生徒アンケート(213人)



◀LGBTQの各アルファベットの
意味を知っているか？

はい 38.5%
いいえ 61.5%



◀LGBTQをテーマにした作品
やニュース、記事などを目にし
たことがあるか？

はい 55.2%
いいえ 44.8%

②Nさん(フォトグラファー)

Oさん(三陸新報)

Hさん(LGBTQを考える会)へのヒアリング

今のメディア

- シスジェンダー・ヘテロセシャルの
「偏った目線」、「当事者の消費」、「種類の少なさ」
LGBTQを雑誌で取り上げる際に意識していること
- 当事者の代表として扱わない
今までないとされていた声を拾い上げる

③ワークショップ(参与観察)

大人5人(内2人メディア関係者)、高校生5人

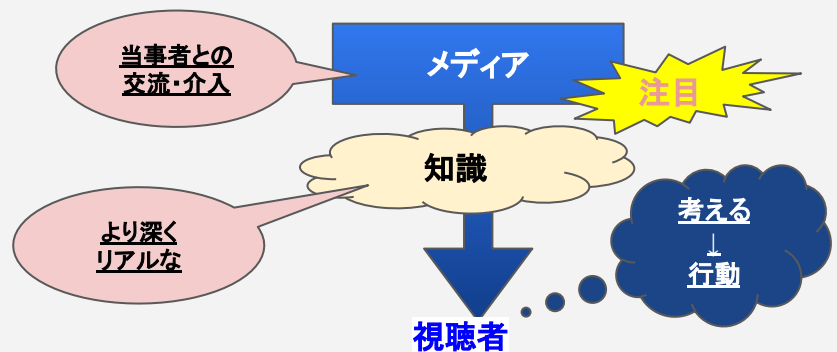
グループディスカッション1

「LGBTQに対する印象」

グループディスカッション2

「LGBTQのメディアの現状」

模擬的なメディアコンテンツ作り

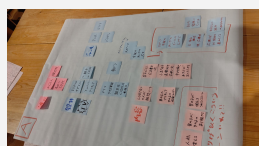


感想

- 色々な視点から話を聞くことが出来た
- 新しい問題点を考えることが出来た
- 新しい知識を得ることが出来た

結果

- ワークショップで知識を深めることは可能
- メディアへのとらえ方を変えることが出来た



4. 展望

①「メディア関係者と当事者を対象にワークショップ」 《内容》

GD: LGBTQに対する印象・LGBTQのメディアの現状
WS: 模擬的なコンテンツ作り

②流し見されないメディアの作り方の調査

参考文献

- ・N様、H様、O様への聞き取り調査
- ・ワークショップへの参加者の皆様
- ・LGBTQ+のQとは？【実はよく知らないクエスチョニング・クエア】
(<https://jobrainbow.jp/magazine/queerandquestioning/>)
- ・アンケートに参加いただいた気仙沼高校の皆様